

MIRA 通信

MISHIMA INTERNATIONAL
RELATIONS ASSOCIATION

<https://mishima-life.jp/mira/>

No. **107** 2018年
平成30年12月15日発行
三島市国際交流協会

〒411-8666
静岡県三島市中央町5-5
三島市役所中央町別館
TEL (055) 976-1020
FAX (055) 976-1021

MVP



14チーム熱戦! 150人が熱戦!

～第7回 MIRAふれあいフットサル大会～



11月11日(日) 南二日町グラウンドにおいて、第7回MIRAふれあいフットサル大会が行われました。外国人チーム1、混合チーム4、日本人チーム9の計14チーム150人が参加し、さわやかな秋空の下、フェアプレイで親睦を深めました。予選リーグからスピード感のある好プレイが繰り広げられ、応援スタンドも熱気に包まれました。MIRAふれあいフットサル実行委員会メンバーも、早朝から設営、進行、ボール拾いに大活躍。参加者とともに心地よい汗を流しました。

審判の伊佐さん
おつかれさまでした



実行委員も
がんばりました♡



第1位

DANONE FC



第2位

LOOP



第3位

RECANTO

結果

第1位 DANONE FC [ブラジル]

第2位 LOOP [日本]

第3位 RECANTO [ブラジル・日本]

第4位 ジェイディーエス J D S [日本]

参加チーム

アリアンサ リマ ニッケイ
ALIANZA LIMA NIKKEI A [ペルー・ブラジル・日本]
アリアンサ リマ ニッケイ
ALIANZA LIMA NIKKEI B [ペルー・ブラジル・ボリビア・日本]
ABJ [日本・スリランカ]
《以下、日本チーム》 チーム・ナーシング、MKN、funfun、
FCカブトムシ、ぬまっち、市役所サッカー部、ALM北上

MVP 森川 ワルテル (DANONE FC)

第55回 英語スピーチコンテスト開催

宇山杯は樋口愛子さん (知徳高校2年)

10月14日(日)三島市民生涯学習センターにて、第55回姉妹都市親善英語スピーチコンテストが開催されました。中学生の部15名、一般の部9名が出場し、出場者全員が自身の思いを英語にして、素晴らしいスピーチを発表しました。審査員の講評では、「スピーチのレベルが年々上がり、審査が難しかったです。これからも練習を重ねて英語を習得してください」とのこと。審査の結果、中学生の部1位は矢山天璃さん、一般の部1位は村川健太さんが受賞し、最優秀者に贈られる「宇山杯」は樋口愛子さんが受賞しました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。出場者のみなさん、素晴らしいスピーチありがとうございました。

スピーチコンテスト入賞者の皆さん (敬称略)

中学生の部		氏 名	学校名	タイトル
	1位	矢山 天璃	北 中 3年	The Importance of Communication
	2位	堀越 和	北 中 3年	The Value of Life
	3位	内藤 誉気	錦田中 2年	Do We Really Need to Go to Juku ?
	特別賞	杉岡 諒祐	山田中 3年	A Journey of a Thousand Miles Begins With a Single Step
一般の部		氏 名	学校名	タイトル
	1位	村川 健太	葦山高 1年	My Suggestions
	2位	森脇 愛翔	葦山高 2年	A New Type of Sport
	3位	堀池 遥	葦山高 2年	What Is Important
	特別賞	樋口 愛子	知徳高 2年	Teenage Depression



審査員紹介

Mr. James Molloy

(カナダ出身 英語教室経営)

Mr. Lloyd Wakefield

(オーストラリア出身 英会話講師)

Mr. Mike Greenway

(イギリス出身 暁秀中学校ALT)

外国の人に日本語を教えるボランティアの養成講座

日本語の教え方講座

平成30年9月7日～11月30日

毎週金曜日午前10時～11時半

全12回

三島市役所中央町別館会議室で開催



森田先生が日本語の教え方講座の講師となって約15年、多くの熱心な受講生たちが和気あいあいとこの講座で学んできました。年齢層も学生からリタイアした方と幅広く、毎回20名ほどの生徒が様々な夢や目標を持って集まります。今回も、日本語教師になりたい方や、過去の海外生活において語学で困った経験から日本に来る外国人の助けになりたいという方、また民泊を営んでいるので宿泊客の外国人に正しい日本語で接したいという方、ボランティアとして三島市で日本語を教えていきたい方などが集まりました。学ぶことが楽しいと語る皆さんの目は生き生きとしています。



森田洋子先生

森田先生は元公立中学校英語教師ですが、現在厚生労働省主催の外国人定着支援研修での日本語教師を務め、三島市の講座は平成14年から担当しています。日本語講師になるには日本語のルールを覚えると同時に、日本語の面白さも知ってもらうことが大切なことだそうです。



南高生の麗水訪問事前学習、秋本茜さんが講演

三島南高校では、中国浙江省麗水市の麗水学院附属高級中学校（日本の高校に相当）と姉妹校提携を行うべく準備中で、今年度の12月、1、2年生の生徒15名ほどが麗水市を初訪問することとなりました。そのため、その事前学習が9月3日におこなわれ、麗水学院に留学中の三島市出身秋本茜さんから、学校や寮の生活、中国での食べ物の話、日本との慣習の違いの話などを伺いました。



事前学習の様子

秋本茜さんは、中学2年生の時、三島市の麗水市派遣研修生事業の研修生として麗水市を訪問。

以来、麗水市の同世代の友人やお世話になったホストファミリーの方々などと交流を続け、高校卒業後、麗水学院の語学研修生として麗水市に滞在して中国語を勉強しました。2017年の9月からは、麗水学院民族学部国際中国語教育学科に留学し現在に至っています。



秋本 茜さん

講演のあと、南高の生徒から麗水での生活に関して多岐にわたる質問が出され、特に、食べ物については日本との違いや、辛いのだろうかなど、皆、興味津々の様子でした。南高と麗水学院とが、姉妹校として交流を深め、生徒同士の友情が育まれていくことを期待します。

三島市・麗水市教師相互派遣事業 麗水市に教師を派遣



大村 慎一
佐野小教務主任



小林 佑
東小教諭

平成30年11月18日～25日にかけて佐野小の大村慎一教務主任（社会科）と東小の小林佑教諭（体育科）が、友好都市である中国浙江省麗水市に派遣されました。二人は麗水学院附属高級中学、花園中学、蓮都中学を訪れ、授業では日本の学校の様子や日本文化の紹介などを行いました。また、各学校の授業参観や校内施設見学、生徒たちとの日中交流、現地教師たちとの交流会、麗水市の教育関係者との座談会などを精力的に行い有意義な時間を過ごして麗水市との友好を深めました。

第11回

フラワーアレンジメント講座

9月15日（土）三島市民生涯学習センターにてフラワーアレンジメント講座が行われました。

今回は中国、日本の2か国からの参加だったので、アレンジメントの前に、日中両国で漢字クイズを行いました。日本語からの出題は、漢字が元になったひらがなを当てるクイズです。例えば、『安→あ』『仁→に』などです。中国語は単語から日本語を当てる問題が出されて、参加者は回答ごとにおおいに盛り上がりしました。



フラワーアレンジメントは講師の指導とお手本を参考にしながら、ダリア（黒蝶という種類で深むらさき色）や、りんどう、唐辛子など、全部で10種類の秋の草花を活けました。それぞれ個性あふれる作品が出来上がり、教室は秋の花々でいっぱいになりました。次回のフラワーアレンジメント講座も楽しみです。

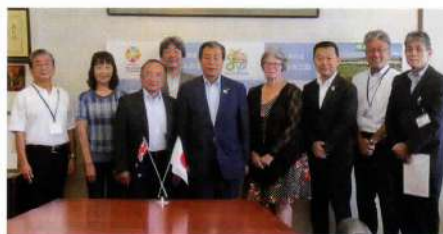
次回は2月11日（月・祝）です。募集の詳細は7ページに



ニュープリマスから リン・マレーさん来島



ニュージーランドの姉妹都市ニュープリマスから、リン・マレーさんがこのほど来日しました。リン・マレーさんは、三島からの訪問団や研修訪問の中高生、教師交換事業で訪問した先生たちがニュープリマスに滞在した際に、イベントや観光の企画、またホストファミリーとしても大歓迎をしてくださっている方です。今回の訪問はプライベートなものでしたが、9月19日午前には、豊岡市長を表敬訪問しました。市長もニュープリマス訪問時にお世話になっており、当時の思い出話や、ニュープリマス周辺で開催されるタラナキ・ガーデンフェスティバルに三島から来てほしいなど、楽しい話で盛り上がりしました。午後からは、佐野美術館や染め物工場を見学、夜は、ニュープリマスでリンさんにお世話になった中高生や先生たちと旧交を温めました。



市長を表敬訪問

大平 實展 | 無言の会話 |

(カリフォルニア州・パサディナ在住)

大宮町の「ギャラリーエクリュの森」に於いて、10月26日(金)～11月30日(金)にパサディナ在住の彫刻家、大平實さんの個展が開催されました。大平さんは1987年にパサディナに居を構え、主に木材を使用し独創的な作品を創り続けています。三島には15年ほど前から二人展や、グループ展を行い、強い関わりを持つ作家です。大平さんは三島の印象を「街中に小川が流れ、歩いていて気持ちの良いまちで、行くごとに発見があり、気に入っております。」と話していました。

2020年秋に三島市民文化会館改修工事終了後に展覧会を行う予定です。この展覧会のプレ展として、2019年2月13日(水)～23日(土)「エクリュの森」にて、同じく美術家の恵千子夫人と三島在住の作家の方達と「2020三島・パサディナ国際交流美術展プレ展」を行う予定です。



菊まつりで秋を満喫しました

三島日本語サークル



楽寿園で開催された菊まつりに、11月11日(日)、三島日本語サークルで日本語を勉強している生徒18人とその先生など30人ほどが訪れ、菊の花を観賞したり、楽寿館や郷土資料館を見学したりして、すっかり深まった秋を満喫しました。普段は個人レッスンのためほとんど交流がない生徒さん同士が、日本語や英語、時には母国語でおしゃべりをして、とても仲良くなりました。



また、当日は、楽寿園内で、GLOBAL FESTA MISHIMAも開催され、日本大学国際関係学部の学生団体「たんぽぽ」や「国際協力部」(ともに富岡ゼミ)、「のびっ子クラブみしま」などが、日ごろの国際理解・国際支援活動の紹介や海外民芸品のチャリティーバザーを行いました。

GLOBAL FESTA MISHIMAの様子



James Molloy - MIRA Newsletter #18

JIMのみしまものがたり⑱

素晴らしい季節かな、秋

凜として澄んだ空気の中、足下の落ち葉を踏む音に耳をかたむけながら散歩するのは格別なものです。

加えて、この季節ならではの魅力的な味覚と香りときたら。完璧な焼き具合の秋刀魚をぱくりと一口。炊きたてほかほかの松茸ご飯に、周囲に漂う甘くて芳醇な香りを楽しみながら味わう焼き栗…想像するだけで、もうたまりません。

ああ、まさに秋たけなわですね…

いつか海外から日本を訪れた友人と秋の味覚を楽しむ機会があった時のために、秋刀魚は“pacific saury”、松茸は日本語と同じ“matsutake”と知っておくと役に立つかもしれません。

では、栗は英語で何と言うかご存知ですか？

英語で栗は“marron ~ マロン”だ、と答える方も多いのではないのでしょうか。しかし残念ながら、「マロン」と聞いて栗だとわかるのは英語のネイティブ話者ではなく、私の友達の中ではカナダ人とフランス人です。マロンの語源は「紅褐色」という意味のフランス語で、ほかに「栗」の意味があるのです。

正解は“chestnut”です。そして、英語でも赤っぽい茶褐色を表現するのにこの単語を使います。

実際、フランス語がどのくらい一般的な日本語として使われているのでしょうか？ 思いつくものを挙げてみてください。

ピーマン、アンケート、バリカン、バカンス、ペンション、シュークリーム、ズボン…と答えたあなたは正解です！

それでは最後にまた問題です。英語では上記の言葉をそれぞれ何と言うのでしょうか？



NO.
7

多文化共生社会の実現に向けて

身近な外国人との コミュニケーション

～「やさしい日本語」で話してみよう～

「やさしい日本語」とは、普段使っている言葉を外国人にもわかるように配慮した簡単な日本語のことです。

あなたも「やさしい日本語」で、身近な外国人と話してみませんか。

7月の閣議決定、外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策(検討の方向性)(案)の「はじめに」では、「外国人を、孤立させることなく、社会を構成する一員として受け入れていくという視点に立ち」「受け入れる側の日本人が共生社会の実現について理解し、協力するように努めなければならない」とあります。また国内に住む外国人の6割は簡単な日本語を理解できるという調査結果から、外国人が日本語を学ぶことに加え、日本人も「やさしい日本語」を知ることで、多文化共生社会に近づくと考えられます。

「やさしい日本語」の目安は、小学校3年生が分かるレベルです。ハサミの法則(はつきり話す、最後まで言う、短く区切って伝える)を使って、ゆっくり話すと伝わりやすくなります。今度、外国から来た人と話すときに、試してみてくださいね。



JICAボランティア

石川航大さんが市長を表敬訪問

国際協力機構（JICA）青年海外協力隊として、10月から2年間、アフリカのマラウイ共和国に派遣される三島市在住の石川航大さん（26）が、出発の前に豊岡武士市長を表敬訪問しました。石川さんは、首都リロングウェのムクウィチ中高等学校で、物理・化学の教科指導、実験や観察を積極的に取り入れた授業の支援などを行います。生徒の指導ばかりでなく、中等教育の正規資格を有する教員が不足しているため、教科への十分な知識を持たない教員への授業実施のスキルアップ、指導・助言も任務となっています。理科の実験などを通して、子どもたちがいろいろなことに興味を持ち、学ぶことの楽しみを感じてくれるように頑張りたいと、熱く抱負を語りました。マラウイ共和国は、アフリカ南東部、タンザニア、ザンビア、モザンビークの3か国に囲まれた内陸国で、マ



ラウイ湖に面した美しい国です。面積は日本の約1/3、人口は1,721万人、タバコ、紅茶、コーヒーなどの農業が主産業です。マラウイは、世界の最貧国のひとつであり、外務省によると渡航危険レベル1に指定されており治安や衛生面にも特別な注意が必要です。きびしい環境下ですが、健康に十分留意して活躍されることを祈ります。



★JICAに関するお問い合わせは

【JICA中部】 <http://www.jica.go.jp/chubu/>

【静岡県デスク】 e-mail: jicadpd-desk-shizuokaken@jica.go.jp

Tel: 054-202-0931（静岡県国際協力推進員 山口さん）

新春交流パーティーのお知らせ

日時 2019年2月3日（日）14:00～16:00
場所 三島商工会議所TMOホール
対象 MIRA会員、在住外国人
会費 1,000円 ＊中学生以下は無料
持ち物 ゲーム用の景品を一人ひとつご用意ください
服装 自由。可能な方は、民俗衣装などでお洒落をしてきて下さい。

（ベストドレッサーには、豪華商品あり!）

メニュー 各国料理、ジュース、ビール、ワインなど

内容 DJ.マーティン・キヌによる

Music & Dance ほか

*申し込みは不要です。当日、直接会場へ

アフォーアレンジメント講座

参加者募集

- 日時 2019年2月11日（月・祝）14:30～16:30
- 場所 生涯学習センター 美術室（5階）
- 定員 20名（三島市在住・在勤の方及び在住外国人または協会会員）
- 参加費 協会会員、在住外国人…1,000円
一般…2,500円（材料費含む）
- 持ち物 花はさみ、新聞紙（あればビニールシート）、雑巾、持ち帰り用袋
- 申込み 往復はがきにて、住所・氏名（ふりがな）・電話番号・会員か非会員かを記入し三島市国際交流協会へ郵送
- 締切 1月31日（木）応募多数の場合は協会会員及び在住外国人優先
- 申込み・問合せ 三島市国際交流協会
〒411-8666 三島市中央町5-5
三島市役所中央町別館2階
Tel: 055-976-1020



オーストラリアン・フェア

～裾野市海外友好協会～

裾野市は、オーストラリアのビクトリア州にあるフランクストン市と姉妹都市提携をし、裾野市海外友好協会（SOFA）を通じて様々な交流を行っています。その一つとして、第14回目となる“オーストラリアン・フェア”が、9月30日、裾野市民文化センターにて開催されました。オーストラリアンフーズの試食や特産品の販売コーナー、ブーメラン・コースターの制作、ボディペイント、バルーンアートなどの体験コーナー、フランクストン市の紹介コーナーなどが、多くの家族連れでにぎわいました。ステージでは、このフェアのために来日したフランクストン高校のバンドの演奏が、軽快なリズムに乗って披露され、大いに盛り上がりました。また、オーストラリアの原住民アボリジニの伝統楽器ディジュリドゥの演奏もあって、会場は、まさにオーストラリア色という雰囲気でした。ディジュリドゥは、最古の木管楽器とされ、シロアリに幹の中を食い尽くされて空洞になったユーカリの木を磨いて作られます。すべて手作りで、1本1本、形や長さ、響く音が異なるのが特徴です。フランクストン市は、メルボルンからポートフィリップ湾に沿って南へ41キロほど、モーニントン半島の付け根に位置し、面積は20.8km²、人口はおよそ3万5千人。郊外にはゴルフ場やワイナリーもあって、温暖で緑が多く、とても美しい街です。裾野市とは、1982年に姉妹都市提携を行い、以後、相互に訪問するなど、市民ベースの交流で親交を深めています。



会場の様子



フランクストン高校のバンド演奏



ディジュリドゥの演奏



麦畑（編集後記）

★ “Le monde est un livre dont chaque pas nous ouvre une page.” Alphonse de Lamartine
（世界は歩みを進めることに新たな一頁を開いてくれる書物だ。 アルフォンソ・ド・ラマルティース）

- ★平成最後の師走に思う。30年、光陰如水流 (S) ★年暮れて近づく五輪の足音や国際交流も追いつかん (魚)
- ★各国流行りの自国ファースト、これから世界はどうなるのやら…。 (明) ★刻々と変わる国際情勢。日頃の交流で育つ相互理解 (桜)
- ★日本人の英語が通じない理由第1位「声が小さい」 (青)